

## 【たはらサンドアートフェスティバル実施報告書】

2022年5月7日（土）

実施：たはらサンドアート実行委員会

### ―― イベント概要 ――

- ・名称 たはらサンドアートフェスティバル～海と日本プロジェクト～
- ・日時 2022年5月7日（土） 12時00分～16時00分
- ・会場 赤羽根ロコパーク（田原市赤羽根西海岸）
- ・概要 砂の彫刻家である保坂俊彦氏のサンドアート作品と田原市内の市民と発達障がい児とその保護者とボランティアによるサンドアート体験
- ・目的 知的・発達障がい児の居場所づくり【海を表現しよう！】
- ・対象 田原市民、近郊の市の市民  
グループサンドアート対象者：知的・発達障がい児を含む児童と保護者
- ・主催 たはらサンドアート実行委員会
- ・後援 田原市、田原市教育委員会
- ・協力 ケアカフェたはら市、至学館大学

### ―― イベント結果 ――

参加者数：280名 グループサンドアート参加者:29名、サンドアート体験教室:77名、  
宝探し:100名、スタッフ、ボランティアスタッフ:74名  
メディア露出：中京テレビ、中日新聞、東愛知新聞、東日新聞

### ―― イベントの様子 ――



【保坂俊彦氏のサンドアート作品】



【トークショー】



【市長からの挨拶】



【グループサンドアート制作】



【グループサンドアート制作をサポートする  
中学生・至学館大学の学生・ボランティアさん】



【サンドアート制作後撮影】



【龍宮太鼓のステージ】



【ヘルプマークの普及啓発】



【一般サンドアート体験】



【ヘルプマーク啓蒙活動】



【グループで作った  
サンドアート】



【ボランティアの中学生に趣旨説明】



【サンドアーティストの方々とスタッフの集合写真】

—— 報道 ——

【東日新聞に掲載】

【中日新聞に掲載】



【東愛知新聞に掲載】



【朝日新聞に掲載】



【中京テレビにて報道】



## サンドアートフェスティバル 愛知・田原市赤羽根西海岸

報道局

愛知

2022/05/07 17:30



愛知県田原市の赤羽根西海岸では、子どもたちが「サンドアート」に挑戦しました。

## ——たはらサンドアートフェスティバル 実施レポート——

当日は、天気に晴天のもと、すべてのイベントの内容を実施することができ280名もの方々がお越しくださり、皆さまのご協力のおかげで盛況となりました。

また、水分補給を随時促すなど熱中症対策と感染症対策を十分にシトリアルなどもなく無事に一日を過ごすことが出来ました。

参加された方から「みなさん優しく対応してくださったので、楽しくリラックスして過ごせました」「グループとなるとなかなか輪に入れず疎外感から「帰りたい」と機嫌悪く連呼され、私（保護者）もイライラ途方に暮れてしまうというのがお決まりでしたが、今回のサンドアートフェスティバルを経験し「また参加したい」と言っていたので、子供の新しい一面を知れたり、嬉しかったりと、気づきや発見が沢山ありました。」と感想をいただきました。実行委員会としては、知的・発達障がいの理解を深めるという点においても普段接する機会の少ない障がい児やそのご家族と長時間交流することで十分に達成できたと、ボランティア同士の振り返りをみて実感することが出来ました。サンドアートを介して海の魅力を発信できたことや、多様な方々が一つの場に集う機会を提供したことで、障がい児を含めた子どもたちの居場所が地域にあることを示すことができたという、達成感も得ることができました。



### 【オープニング】12:00～12:30

サンドアーティストの保坂：氏制作のモニュメント作品をバックに、オープニングセレモニーを行いました。地元の太鼓団体「琉球太鼓」による迫力ある太鼓ステージ、応援に駆けつけてくださった市長や国会議員、県議会議員の皆様からご挨拶をいただきました。代表の挨拶ではイベント内容についての案内だけでなくヘルプマークの啓発も行いました。

オープニングセレモニーは発達障がい児による開会宣言で幕を閉じました。またサンドアーティストの保坂俊彦氏によるトークショーも行い、海の魅力、砂の魅力に触れ、サンドアート制作を楽しむための気持ちを盛り上げました。なお、ボランティアの方々には、イベント開始前に集まってもらい、スケジュールと役割分担の確認と、感染症対策についてのマニュアルを配布し、感染症対策についての徹底を促しました。



### 【交流タイム】12:30～13:00

今回イベントは多くのボランティアさんにご参加頂きました。至学館大学の学生や、田原中学校のボランティアサークル「たはらボランティア」の中学生、地元企業の方や地域の方など約50名のボランティアさんが、グループサンドアートに参加されるご家族のみなさんと一緒に作品を作りましたので、この時間に、グループ毎に分かれて、お互いに自己紹介をしていただき、各グループのチーム名を決めたり、作るものや、目標の共有をしました。



### 【サンドアート体験】13:00~1:00

参加者に時間を分けて案内し、密にならないよう配慮して実施しました。田原中学校のボランティア団体「たはランティア」の生徒と地元企業のボランティアの方々に、マスクの着用、机や備品などの消毒などの感染症対策をしながら、子どもたちの制作サポートに当たっていただきました。グループごとに作りたいテーマを決め、完成まで近づけます。

自分の作りたいテーマの形が段々と出来上がってくるワクワク感、砂をシャベルで運んだり、固める為の水を運ぶ大変さを味わったりしました。また、普段は関わる機会が少ない中学生や地元企業のボランティアの方など多様な人と交流する機会となりました。ボランティアの方々にとっては、自分の役割をこなすだけでなく、その場の状況に臨機応変に対応しつつ、多様な方々と協力しながらサンドアートという一つの間を運営するという体験となりました。

またサンドアートと同時進行でゲストのお話を聞きました。

視覚障がい者団体「さくらんぼ」の代表 柳田智可(やなぎだはるか)さんに来ていただきました。柳田さんは、学校や、福祉施設などを訪問し、障がいの理解を広めたり、ギターを引き語りをされています。当日も楽器をもってお越しくださり1曲、歌っていただきました。



### 【その他の会場の催し】

地元の太鼓クラブ「龍宮太鼓」の太鼓ステージ、景品付きの宝探しなど、来場者の方が楽しめる催しを実施しました。宝探しでは4色のカプセルを用意し、4人1組で景品を貰える仕組みにして来場者全員で楽しむことで、知的・発達障がい児との交流を図っていただき、子どもたちの居場所が地域にあることを感じてもらう場にもなりました。

### 【閉会セレモニー】15:40~16:00

グループサンドアート制作に参加していただいた家族へ感謝を込めて折り紙メダルと寄せ書きの色紙をプレゼントしました。その後、全員で記念撮影を行いました。

また、グループサンドアートにご参加いただきましたご家族に、お礼の品として、イノチオさんご提供のカーネーションと、来場者全員に伊藤海苔さんご提供の味付け海苔を配布しました

